メイクとネイルまで含めたコーディネート思考

母のメイク道具をこっそり試す。そんな経験がある読者も少なくないのではなかろうか。安室ちゃんに憧れ、厚底ブーツにミニスカートを履きたかった。ファッション・ヘアスタイル・メイクに興味を持ち始めた彼女は、アパレル店への興味を抱きながらも、高校卒業後にはネイリストの道を選ぶこととなる。

職場は皆仲が良く同僚や先輩とも買い物に行き、洋服に止まらず、ネイルやメイクまで含めてアドバイスをもらっていたという。肌色はもちろん、アイシャドウの色など、メイクと洋服の色味を考慮するというハイレベルなトークを展開していたというのは非常に興味深い。そして、好きでなければ、楽しくなければできないことである。

仲の良さが功を奏し、忖度なく、似合う似合わないの結論や、自身のワードローブとの兼ね合いなどを考慮したアドバイスを得ることができたという。はじめのショックはあったものの、遠慮がない方が学びにもなり、異なる視点から物事を捉えることができることに気付いた。この経験が今の彼女にも活きているのだろう。

子供第一ファッションとは

Instagram で自身のファッションを発信する彼女。きっかけは友人の勧めだったという。開設当初は子供と過ごす時間をおさめた写真が多かったが、幼稚園に入り一人の時間ができてからは、友人と共にコーディネート写真を投稿するようになる。

「ママらしい格好をしなくては」「子供を変に思われたら可哀想だ」そんな思考から露出などを考慮し、デニムにシャツといったカジュアルなものを選んでいた。しかし投稿に書き込まれるコメントなど、友人や同年代のママから反響があったのは、彼女が本来好きなキレイめファッションだった。

アンバサダーなどの声もかかり、少しずつ彼女は「〜しなくては」から解き放たれ、本来自分が着たい物を着ることができるようになっていく。友人の「いいんじゃない？」の一言が背中を押してくれた。もちろん機能性なども重視した上で、子供のお迎えにはランチの服装から着替えたりと、ファッションを全力で楽しみながらも子供を第一に考える素敵な「ママ」なのだ。

シンプルに、でも人と違う

そんな彼女の最近の悩みといえば、いつも似た服装になってしまうこと。大人っぽくしようと色物が減り、ベーシックな洋服のチョイスで、コーディネートの印象が似てしまう。そこで着目したのが、３つのポイント。

1. 人と違う、目を引くアイテムを集める。

2. シューズとバッグはベーシック系の色味以外、且つ色味を統一する。

3. アクセサリーをパールなど華やかなものにしたり、巻物などの小物を原色にする。

秋冬などは特にベーシック・ダークトーンが増えるが、シルエットや色・小物使いで大きなポイントを作り、コーディネートの印象を変えるよう意識をしているという。

今後の展望

自身のオーナーブランド「elmu」を展開する彼女。ママが楽しめるアイテム、そしておうち時間が増えたことからインテリア雑貨など家での時間を豊かにするアイテムを増やしていき、ファンを拡大していけたらと考える。

コロナ禍で店頭よりもネットでの買い物需要が大幅に拡大したが、今のネットワーク技術は凄いもので、閲覧履歴が紐づき、広告やマイページに「あなたにオススメ」なんて表示や項目で溢れているのは読者の皆様もお分かりだろう。もちろんリサーチには重要かもしれないが…。普通に過ごしていては新しい自分との出会いの機会は減ってしまう。そう危機感を感じた彼女は意識的に様々な価値観と触れながらファッションについて考えるようにしている。

「これは似合わないかもしれない」ではない。「持っているあのアイテムと合わせると似合うかもしれない」と視野を広げてみるのだ。そんな風に考えながら、「elmu」を発展させていきたいと彼女は願う。自分を変えたい誰かが、変われるきっかけとなるブランドになる。